

教育課程研究指定校事業実施計画書（平成 28 年度）  
 - 研究課題 2 中学校 -

都道府県・指定都市番号	1	都道府県・指定都市名	北海道
-------------	---	------------	-----

公立 ・ 私立 ・ **国立** (○で囲む)

1 研究指定校の概要

ふりがな 学校名	ほっかいどうきょういくだいがくふぞくあさひかわ 北海道教育大学附属旭川中学校				ふりがな 校長氏名	あんどう ひでとし 安藤 秀俊
所在地	〒070-0874 北海道旭川市春光4条2丁目1-1 電話 (0166) 53-2751 FAX (0166) 53-2861 E-mail					
(H28.4.1 見込)	1年	2年	3年	計	(H28.4.1 見込。臨時的任用の者は常勤の者のみ含む)	
学級数	3	3	3	9	教員数 16名	
生徒数	111	108	112	331	[調査研究にかかわる教科等の教員数] 1名	
特記事項						

2 研究主題等

教科等名	技術・家庭科（家庭分野）	教科課題番号等	①
学校における研究主題	幼児への関心を高め、関わり方を工夫する能力と実践的な態度を育むための指導の工夫		

3 平成 27 年度の成果と課題

<p><b>成果</b></p> <p>○幼児の心身の発達の知識を基に、幼児の観察や、実際に幼児と触れ合ったり、遊んだりする活動を通して、どう関わってよいかわからず幼児を苦手としていた生徒も幼児への理解を深め、好意的な感情をもち、関心を高めることができた。</p> <p>○幼児との関わり方の工夫を考える授業に触れ合い体験の事前と事後に行った。事前の授業では、幼稚園の先生が幼児と関わる映像を見ることを通して、視線を合わせる、笑顔で話しかけるなどの関わり方の工夫を学び、自分なりの課題を持って幼児との関わり方の工夫をすることができた。事後の学習においては、触れ合い体験を振り返り、実際に関わった幼児の発達段階に合わせた遊び方の工夫を考えさせた。その結果、体験を通して学んだことを生かし、「幼児の思いを大事にして遊びを決める」や「手を添えて、物の使い方を教える」など、発達段階に応じた工夫をすることができた。</p> <p>○遊びを通した幼児との関わり方において、客観的な評価を行うためには、遊びを選択する理由を明確にしたり、いくつかの視点から工夫を考えさせたりすることが有効であることがわかった。</p> <p><b>課題</b></p> <p>○幼児との触れ合い体験で学んだことが、日常生活における幼児との関わり方の実践につながるよう、より一層体験の目的を明確に子供たちに持たせることや、体験内容を精査するなど、さらに授業の工夫改善を図る必要がある。</p> <p>○幼児への理解をより深め、生徒自身が発達段階や状況に応じた関わり方を考えることができるようになるためには、扱う映像資料の内容を検討したり、見せ方を工夫したりするなど、ICTの効果的な活用について工夫を図る必要がある。</p> <p>○幼児との関わり方について、幼稚園訪問の事前と事後でどのように思考が変容したのか、その</p>
---

効果を検証する必要があった。

- 「生活を工夫し創造する能力」の評価について、「十分満足できる」状況と判断する際の評価の基準について、十分検討することができなかった。

#### 4 平成28年度の研究計画

##### (1) 本年度の研究の重点等

- ①扱う映像資料の内容の検討や、見せ方の工夫、ICTの効果的な活用について工夫改善を図る。
- ②幼児との関わり方の工夫について、生徒の思考がどのように変容したのか、その過程が明確になるようなワークシートの工夫改善を図る。
- ③幼児との触れ合い体験において、幼児の心身の発達に関する学びが生かされるよう、生徒が自ら課題を持ち、その解決に向けて主体的に追究する授業を充実させる。
- ④幼児との関わり方の工夫について「生活を工夫し創造する能力」の評価における「十分満足できる」状況と判断する際の基準について、さらに追究する。

##### (2) 研究計画

実施時期	研究内容、研究方法、成果の公開等	期待される成果等
4～7月	<ul style="list-style-type: none"><li>○2学年で実施する内容 A「家族・家庭と子どもの成長」の(3)「幼児の生活と家族」ア「幼児の発達と生活の特徴、家族の役割」、イ「幼児の観察や遊び道具の製作、幼児の遊びの意義」、ウ「幼児とのふれあい、関わり方の工夫」及びエ「家族又は幼児の生活についての課題と実践」の指導計画、指導方法の見直しを図る。</li><li>○アンケートを実施し、生徒の実態を把握する。</li><li>○幼児の心身の発達と遊びの意義について、発達段階の差がわかるICTやそれを活用した指導方法を検討し、授業実践を行う。</li><li>○幼児の発達の学習を生かして、触れ合う活動に向けた関わり方を工夫する授業実践を行う。<ul style="list-style-type: none"><li>・「生活を工夫し創造する能力」を見取るために、思考の過程を把握できるワークシートを工夫し作成する。</li></ul></li></ul>	<ul style="list-style-type: none"><li>○生徒の実態を把握し、実践の手立てを検証することができる。</li><li>○問題解決的な学習を進め、教材等を工夫することで、幼児の心身の発達や遊びに対する関心・意欲・態度の高まりや知識の定着について把握することができる。</li><li>○生活を工夫し創造する能力の評価方法を示すことができる。</li></ul>
8～12月	<ul style="list-style-type: none"><li>○触れ合う活動において、生徒が幼児とどのように関わったのか、見取ることのできるよう、工夫した記録用紙を作成し、実施する。</li><li>○触れ合う活動実施後に、幼児とのかかわり方の工夫を考える授業実践を行う。<ul style="list-style-type: none"><li>・触れ合い体験で観察したことを生かして、幼児の心身の発達段階に応じたかかわり方の工夫を考える授業実践を行い、触れ合う活動の効果を検証するとともに、その評価について検討する。</li><li>・授業実践については、全国技術家庭科研究大会旭川大会で公開する。</li></ul></li><li>○アンケートを実施し、授業の前後による幼児や家族への意識の変化を分析する。</li></ul>	<ul style="list-style-type: none"><li>○広く公開することにより、研究課題を再確認し、研究の進め方を検討する。</li><li>○生活を工夫し創造する能力を育成するための効果的な指導計画を明らかにすることができる。</li></ul>
1～3月	<ul style="list-style-type: none"><li>○これまでの成果と課題を整理する。</li></ul>	

#### 5 研究のまとめの見通し

- ・研究成果は、上川管内技家研究会などで公開し、研究協議を行うことによって、研究の深化と成果の普及を図る。
- ・全国技術・家庭科研究大会で、「生活を工夫し創造する能力」に関わる授業を公開し、研究成果の普及に努める。